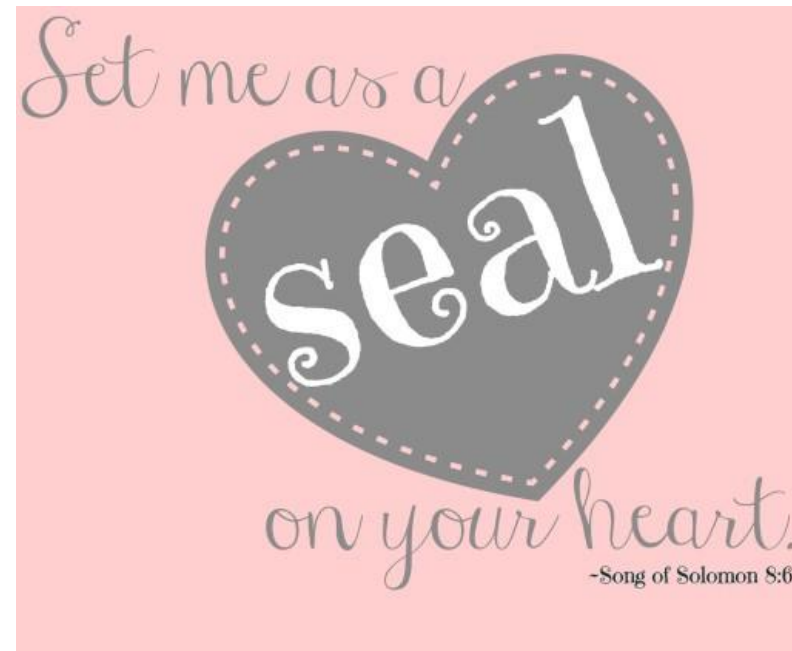


雅歌の世界に触れる

2022年5月27日



雅歌の書名「シール・ハツシリーム」

שִׁיר הַשִּׁירִים אֲשֶׁר לְשׁוֹלֹמֹה

Shir ha•shi•rim ashér li•Sh'lo•mo.

The song of songs, which is Solomon's.

フィリス・トリブル『神と人間性の修辞学』から
「取り戻された愛の叙情詩」の章（以下、その抜粋）

<楽譜をよむ>

三つの人間の声がこの新しいうたを構成する。

- 一人の女 [おとめ = 新共同訳]
- 一人の男 [若者]
- 一群の女たち (エルサレムの娘たち)

三人の語り手の中で、女が最も傑出している。
彼女がうた全体を始め、そして終え、全体を通して
彼女の声が支配する。
この構造上の強調で、彼女の男に対する平等性と相
互性が照らし出された。

トリブルの本書

- 第4章 つまずいたラヴ・ストーリー
(創世記2~3章)
- 第5章 取り戻された愛の叙情詩
(雅歌)

愛の交響楽として、それは長さの異なる五つの主な楽章を展開する。

はじめの四つの区分の各結論で、その女はくり返しを口ずさんで、それらの楽章を引きはなしたり結びつけたりする。それは「エルサレムの娘たちよ、私は懇願します」で始まる。

(例——1楽章の終わり 2:7)

「エルサレムのおとめたちよ
野のかもしか、雌鹿にかけて誓ってください
愛がそれを望むまでは
愛を呼びさまさない。」

愛の交響楽	
序楽章	1:2-2:7
2 楽章	2:8-3:5
3 楽章	3:6-5:8
4 楽章	5:9-8:4
5 楽章	8:5-14

< テーマに基づく変奏曲の探究 >

男性と女性はエデンの園においてはじめて一つの体になった。……今やもう一つの園で、恋人たちは彼ら自身充分に性の交わりの喜びをたたえる。

味覚、臭覚、触覚、視覚と聴覚がこのうたの園にみちみちる。

雅歌の中では恋人たちの誕生は、父については一切語られていないが、彼らの母親と結びついている。少なくとも1楽章に1度ずつ、計7度、母という語が現れる。これらの言及は、愛の叙情詩の中で女性の傑出を改めて重視しているのである。3:4ほか
彼女は愛は死以上のものだと確認する。8:6

五つの感覚

甘い実を口に含みました 2:3

あなたの名はかぐわしい 1:3

つかまえました、もう離しません 3:4

あなたは美しく、その目は鳩のよう 4:1

恋しい人の声が聞こえます
2:8

<そのうたの完成>

男と女は相互性と調和のために生まれ、性別の一体性を祝うために自然と歴史が結びついている園に住んだ。

……この二人は、やさしさと尊敬をもって相手に接した。

この状態の中では男性の支配も、女性の従属もなく、いずれの性についても固定した概念はない。

彼女は働き、ぶどう園を管理し、羊を飼う。このうたを一貫して、彼女は自立しているし、男とまったく同等である。

恋しいあのはわたしのもの
わたしは恋しいあのはのもの

6:3

【各楽章からの抜粋】

1 楽章

1:2 どうかあの方が、その口のくちづけをもって
わたしにくちづけしてくださるように。

2:2 おとめたちの中にいるわたしの恋人は
茨の中に咲きいでたゆりの花。

2:3 若者たちの中にいるわたしの恋しい人は
森の中に立つりんごの木。

これはトリブルによる「楽章」
区分。雅歌の「章」ではない。

2 楽章

2:8 恋しい人の声が聞こえます。

山を越え、丘を跳んでやって来ます。

2:11 ごらん、冬は去り、雨の季節は終わった。

2:12 花は地に咲きいで、小鳥の歌うときが来た。

この里にも山鳩の声が聞こえる。

2:16 恋しいあの人はわたしのもの

わたしはあの人のもの

2:11～12は聖歌179（暗い冬は過ぎ）の歌詞出典箇所

3 楽章

5:2 眠っていても

わたしの心は目覚めていました。

恋しい人の声がある、戸をたたいています。

5:6 戸を開いたときには、恋しい人は去った後でした。

恋しい人の言葉を追って

わたしの魂は出て行きます。

求めても、あの人は見つかりません。

呼び求めても、答えてくれません。

5:7 街をめぐる夜警にわたしは見つかり

打たれて傷を負いました。

城壁の見張りは、わたしの衣をはぎ取りました。

夜警の暴行、傷害。恋ゆえの苦難。

「恋しい人」はこれを知ってくれるのか……

4 楽章

5:10 わたしの恋しい人は
赤銅色に輝き、ひととき目立つ。

6:4 恋人よ、あなたはティルツァのように美しく
エルサレムのように麗しく
旗を掲げた軍勢のように恐ろしい。

ティルツァは北王国イスラ
エルの首都

6:5 わたしを混乱させるその目を
わたしからそらせておくれ。
あなたの髪はギレアドを駆け下る山羊の群れ。

5 楽章

8:6 わたしを刻みつけてください
あなたの心に、印章として
あなたの腕に、印章として。

愛は死のように強く
熱情は陰府のように酷い。
火花を散らして燃える炎。

聖書協会共同訳では「熱情
は陰府のように激しい」。

8:7 大水も愛を消すことはできない
洪水もそれを押し流すことはできない。

8:14 恋しい人よ
急いでください、かもしかや子鹿のように
香り草の山々へ。

ヘブライ語朗読 雅歌 第1章



1:1 ソロモンの雅歌。

1:2 どうかあの方が、その口のくちづけをもって／わたしにくちづけしてくださるように。

◆おとめの歌(1)

ぶどう酒にもましてあなたの愛は快く

1:3 あなたの香油、流れるその香油のように／あなたの名はかぐわしい。おとめたちはあなたを慕っています。

1:4 お誘いください、わたしを。急ぎましょう、王様／わたしをお部屋に伴ってください。

◆おとめたちの歌(1)

わたしたちもあなたと共に喜び祝います。ぶどう酒にもまさるあなたの愛をたたえます。人は皆、ひたすらあなたをお慕いします。

◆おとめの歌(2)

1:5 エルサレムのおとめたちよ／わたしは黒いけれども愛らしい。ケダルの天幕、ソロモンの幕屋のように。

1:6 どうぞ、そんなに見ないでください／日焼けして黒くなったわたしを。兄弟たちに叱られて／ぶどう畑の見張りをさせられたのです。自分の畑は見張りもできないで。

1:7 教えてください、わたしの恋い慕う人／あなたはどこで群れを飼い／真昼には、どこで群れを憩わせるのでしょうか。牧童たちが飼う群れのそばで／顔を覆って待たなくてもすむように。

◆おとめたちの歌(2)

1:8 だれにもまして美しいおとめよ／どこかわからないのなら／群れの足跡をたどって羊飼いの小屋に行き／そこであなたの子山羊に草をはませていなさい。

◆若者の歌(1)

1:9 恋人よ、あなたをたとえよう／ファラオの車をひく馬に。

1:10 房飾りのゆれる頬も／玉飾りをかけた首も愛らしい。

1:11 あなたに作ってあげよう／銀を散らした金の飾りを。

◆おとめの歌(3)

1:12 王様を宴の座にいざなうほど／わたしのナルドは香りました。

1:13 恋しい方はミルラの匂い袋／わたしの乳房のあいだで夜を過ごします。

1:14 恋しい方は香り高いコフェルの花房／エン・ゲディのぶどう畑に咲いています。

◆若者の歌(2)

1:15 恋人よ、あなたは美しい。あなたは美しく、その目は鳩のよう。

◆おとめの歌(4)

1:16 恋しい人、美しいのはあなた／わたしの喜び。わたしたちの寝床は緑の茂み。

1:17 レバノン杉が家の梁、糸杉が垂木。

Song 1:1 שִׁיר הַשִּׁירִים אֲשֶׁר לְשִׁלְמָה : 2 יִשְׁכַּנִּי מִנְּשִׁיקוֹת פִּיהוּ כִּי־טוֹבִים
 הָיִיתָ אֲמֵינִי : 3 אֲלֵרִיתִי שְׁמִנִּיךָ b טוֹבִים c a שְׁמֵן תּוֹרֵק c שְׁמֶךָ עַל־כֵּן עַל־מֹת
 אֶהְבֹּךָ : 4 אֲמִשְׁכַּנִּי b אֶחְרִיךָ a נְרוּצָה הֶבִיאֲנִי c הַמֶּלֶךְ תְּדַרְּיוּ e d נְגִילָה
 וְנִשְׁמַחְתָּ e בְּךָ נִזְכִּירָה דְרִיךְ f מִיָּיִן g מִיִּשְׁרַיִם אֶהְבֹּךָ : h ס 5 שְׁחֹרָה אֲנִי
 וְנֶאֱוָה בְּנוֹת a יְרוּשָׁלַם כְּאֶהְלִי קָדָר כִּירִיעוֹת שְׁלֹמָה b : 6 אֶל־תִּרְאוּנִי שְׂאֲנִי
 שְׁחַרְחֹרֶת שִׁשְׁזַפְתָּנִי הַשֶּׁמֶשׁ בְּנִי אֲמִי נִחְרוּ־בִי שְׁמִנִי נִטְרָה אֶת־הַכְּרָמִים
 כְּרָמִי שְׁלִי לֹא נִטְרָתִי : 7 הַגִּידָה לִּי שְׂאֶהְבָּה נִפְשִׁי אֵיכָה תִרְעֶה אֵיכָה
 תִּרְבִּיץ בְּצִהְרִים שְׁלֹמָה אֶהְיֶה כְּעֵטִיהָ a עַל עֲדָרֵי תְּבִרֶיךָ : 8 אִם־לֹא תִדְעִי
 לָךְ הִיפָּה בְּנָשִׁים צֹאֵ־לָךְ בְּעַקְבֵי הַצֹּאֵן וְרַעִי אֶת־גְּדִיתֶיךָ a עַל מִשְׁכְּנוֹת
 הָרְעִים : ס 9 לְסֹסְתִי a בְּרֻכְבֵּי פִרְעֹה דְּמִיתֶיךָ רַעֲיֶתִי b : 10 נֶאֱוָו a לְחִיֶּיךָ
 בַּתְּרִים b צֹאֲרֶךְ בַּתְּרוּזִים c :



雅歌の解釈

色々な時代に様々な機会に創作され、そして歌い継がれてきた多くの恋愛歌を後代の編集者がまとめあげて一つの歌集としたもの（勝村）。

全体としての一貫性を認めて、一人の詩人もしくは密接に結びついた詩人グループを想定する立場もある（ジェンソン）。

(1) 比喩的解釈

神と神の民（教会、魂）の間の愛を歌うものと理解。

(2) 字義的歴史的解釈

世俗的な恋愛歌集と理解。

比喩的解釈の例：

【K J V（1611）の注】

著者は伝統によればソロモン。

1章 The church's love to Christ.

2章 Mutual love of Christ and his church.

5章 Christ awakes the church with his calling.

雅歌は豊かな芸術の源泉になってきた。

(勝村弘也「雅歌 解説」岩波 旧約聖書 X III)

バッハ カンタータ**140**

「起きよと、われらを呼ぶ声がする」

4. コラール

(聖歌**58**「起きよ、夜は明けぬ」)

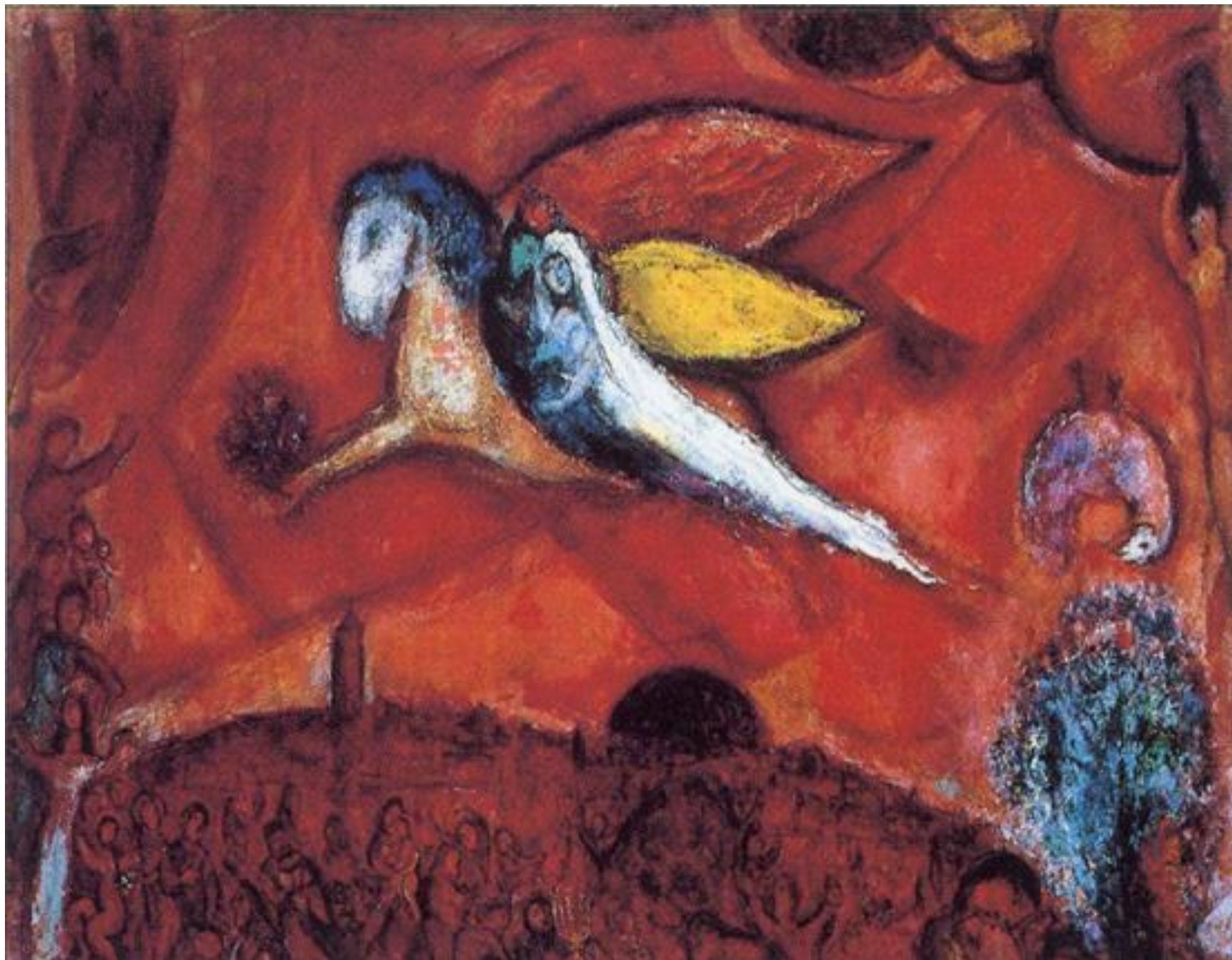


<https://www.youtube.com/watch?v=9Do6NLjGqq0>

シャガール

「雅歌」連作から

5枚の連作の一つ。
雅歌第4章に対応するもの
といわれる。



【参考文献】

新共同訳旧約聖書注解（太田道子）

ATD旧約聖書注解（ヘルマー・リングレン）

岩波 旧約聖書（勝村弘也）

フィリス・トリブル『神と人間性の修辞学——フェミニズムと聖書解釈』

ヘルムート・ゴルヴィツァー『愛の讃歌——雅歌の世界』

佐々木勝彦『愛は死のように強く——雅歌の宇宙』

小友聡『謎解きの知恵文学——旧約聖書・「雅歌」に学ぶ』